

2025年3月期 決算資料

株式会社 イクヨ

2025年6月20日

東証スタンダード
証券コード:7273



目次

- 01 社長メッセージ・新経営戦略 P3~
- 02 会社概要 P11~
- 03 2025年3月期の業績 P17~
- 04 2026年3月期の予想 P24~

2024年3月より社長就任

当社は1947年の設立以来、自動車の装備品の製造・販売に従事し、社是「和して合理主義に徹し、社業の発展を通じ、社会に貢献する」を実践してきました。当然ながら、ステークホルダーの皆様や社会全体との共存共栄や、持続可能な社会の実現にも積極的に取り組んで参りました。

当社は設立以来、自動車の装備品の製造および販売を主な内容とした事業活動を行っています。しかしながら、当社グループの主力製品である自動車用樹脂成形品については、市場熟成分野であり需要の伸びが期待できず、厳しい業界内競争が続いております。

このような背景の下、当社はドイツ系企業の中国法人(KVAS社)を買収することを決定し、厚木工場の土地をセール・アンド・リースバック方式で実施するとともに、第三者割当増資も実施することといたしました。本施策を通じて、当社および子会社は、より高い品質と低コストでの生産を実現し、日本国外での事業展開を可能とすることで、販路の拡大を図ることができるものと考えております。これは、当社の成長戦略において極めて重要な取り組みであります。

日頃からお世話になっている全てのステークホルダーの皆様にご理解とご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



株式会社イクヨ
代表取締役社長

孫 峰

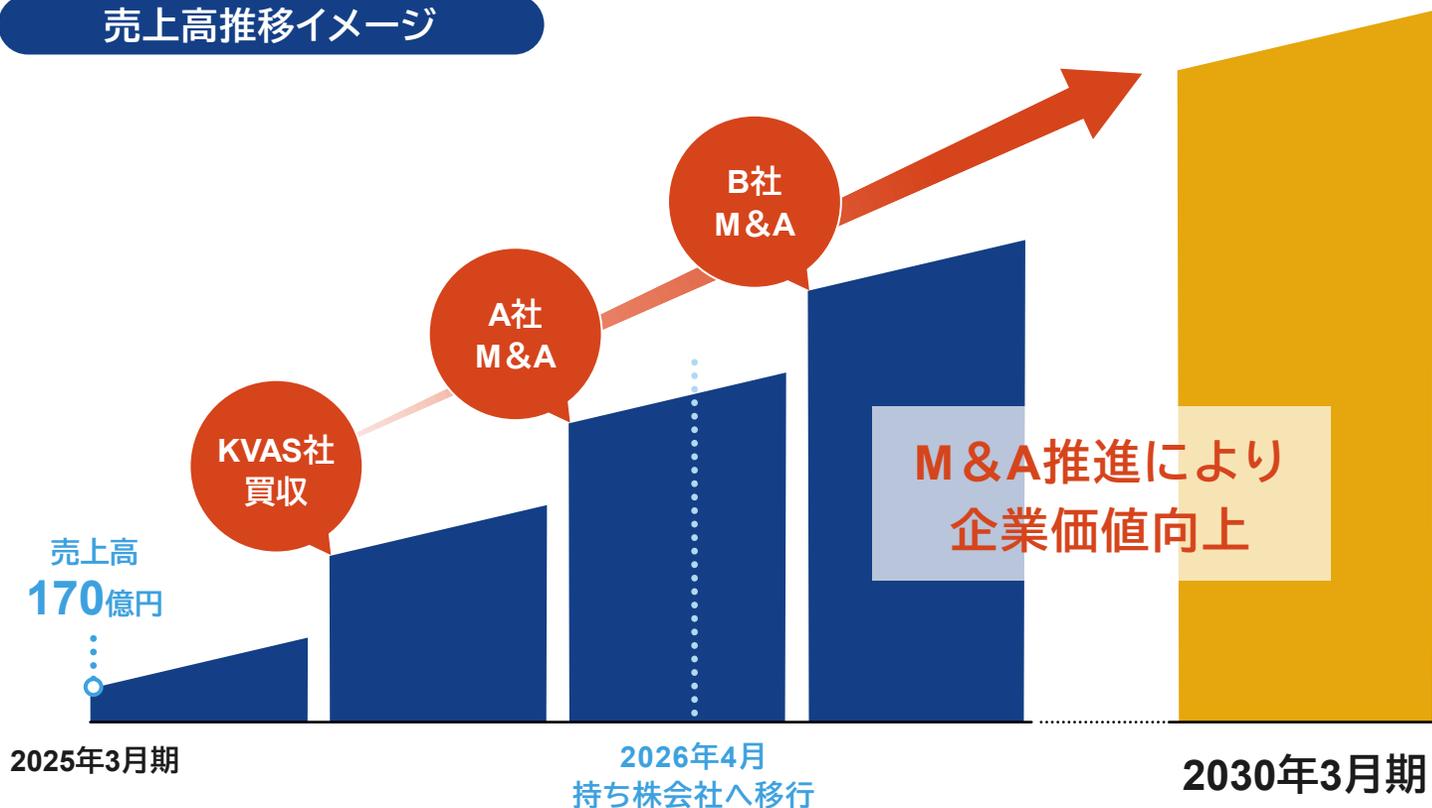
経営戦略の遂行を目指して、組織体制を構築

世界の自動車業界の大きな変化に対応するため、当社はM&Aによるグローバル展開を加速し、ホールディングス化で新体制の構築を目指します。

ホールディングス化によるイクヨグループの変革

▶ KVAS社の買収を筆頭に、今後もM&Aの推進

売上高推移イメージ



変革戦略

- ① 新規事業や事業拡大に投資する
エクイティによる資金調達
- ② M&Aや資本・業務提携による外部ケイパビリティ獲得
- ③ 各事業会社にフィットした人事制度導入による優秀な人材の獲得と育成

経営戦略の遂行を目指して、組織体制を構築

ホールディングス化によるイクヨグループの拡大



戦略 1

M&Aおよび資本・業務提携

M&Aや資本・業務提携による外部企業全体の組織能力を獲得



戦略 2

人材の獲得と育成

各事業会社にフィットした人事制度導入による優秀な人材の獲得と育成



戦略 3

エクイティによる資金調達

新規事業や事業拡大に投資するエクイティによる資金調達

KVAS社※株式の取得(子会社化)

※ Kunshan Veritas Automotive Systems Co., Ltd.

- 国際競争力を強化し、グローバル拡大を推進
- 新市場への進出および新規顧客の獲得を図ることによる営業力強化

第三者割当増資の実施

- KVAS社株式の取得費用および新工場への移転費用に充当



2025年4月、KVAS社をIKUYOの傘下へ Kunshan Veritas Automotive Systems Co., Ltd.株式の取得(子会社化)

目的

① 事業の拡大

新たな市場に進出し、
製品ラインの多様化を図る

② グローバル展開強化

特に中国市場などでの競争
力を強化し、グローバルな事
業展開を拡大

③ 技術力強化

KVAS社の技術を取り入
れ、品質向上と新技術の
導入を進める

④ 顧客基盤拡大

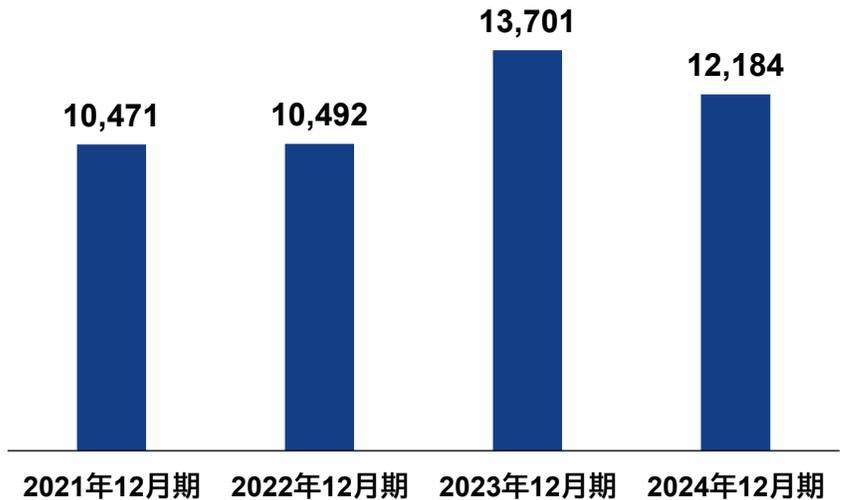
KVAS社の顧客基盤を活
用して、新規顧客を獲得し、
営業力を強化する

KVAS社の基本情報

名称	Kunshan Veritas Automotive Systems Co., Ltd.
所在地	中華人民共和国 江蘇省
代表者名	Director Pan Xiaobo
事業内容	自動車部品、燃料パイプ、ガソリン微粒子フィルター（OPF）、ターボ充電システムなどを主に製造
資本金	1,158 百万円
設立年月日	2011年6月16日

KVAS社売上高

(単位:百万円)



詳細はこちらへ:<https://www.ikuyo194.co.jp/topics/>



ホールディングス化によって各事業会社にフィットした専門人材の採用・育成が可能に

人的資本の当初課題

専門人材(即戦力)の不足

新事業の即戦力を求めるが、従来の給与体系では人材確保が困難

独立採算制

各部門にて管理業務や重複業務が発生することによる人件費高騰



ホールディングス化 / 子会社化

各社に適した経営体制・給与体系を設定し、優秀な人材を育成

独立した経営体制

各社異なる意思決定プロセスを設けることで、迅速な経営が実行可能



独立した給与体系

従来の給与体系に縛られることなく、M&A投資やその他事業の業務に適した即戦力の専門人材の採用が可能



各社に適した人事制度

各社にフィットした人事制度導入により優秀な人材の獲得と育成が可能



既存ものづくり教育の踏襲

既存事業のものづくり教育を引き続き踏襲





第三者割当増資の実施

約52億円の調達

目的

① 生産性向上

最新設備導入と省エネルギー化で効率化を目指す

② 経営基盤強化

環境対応や競争力向上を目指した体制構築

③ 顧客満足度向上

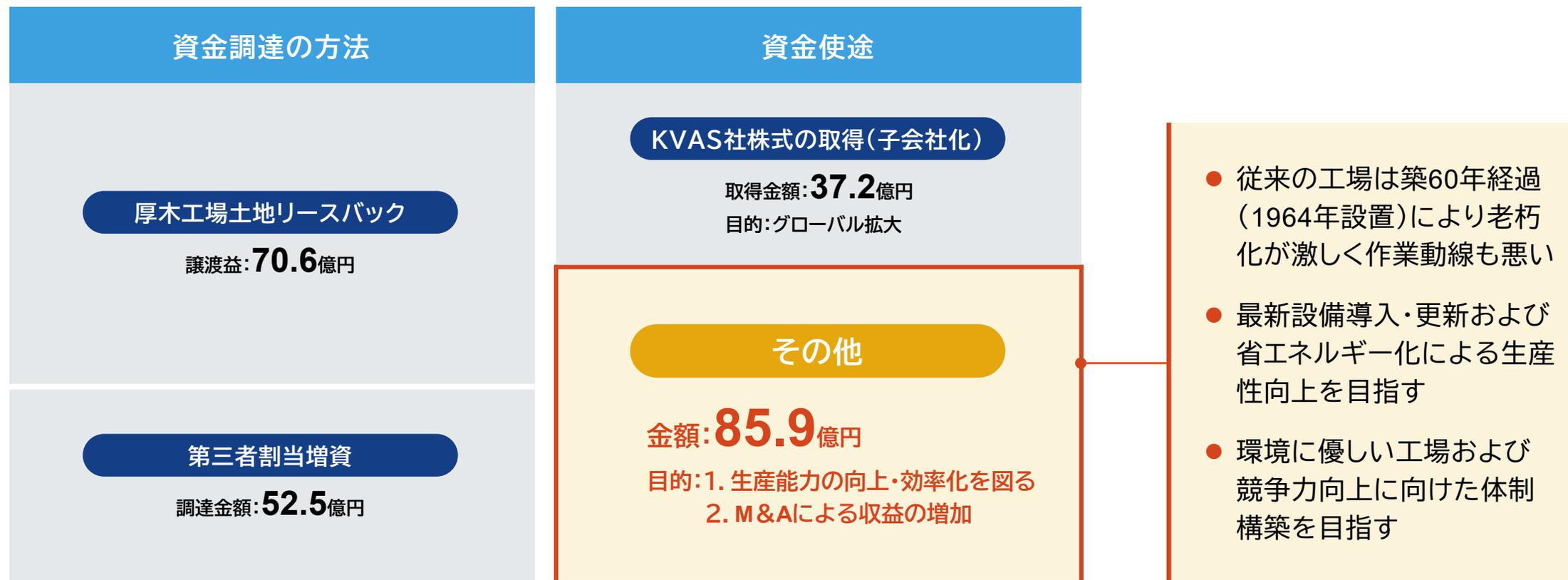
物流コスト削減と納期対応力の向上

第三者割当により発行される第1回新株予約権の募集内容

割当日	2025年2月17日	新株予約権の総数	15,000個
発行価額	総額 155,160,000円(新株予約権1個につき 10,344円)	当該発行による潜在株式数	1,500,000株
調達資金の額	5,252,160,000円	(内訳) 新株予約権発行分 155,160,000円 新株予約権行使分 5,097,000,000円 本新株予約権の権利行使期間内に行使が行われない場合および当社が取得した新株予約権を消却した場合は、上記の金額は減少します。	
行使価額	1株につき 3,398円		
募集又は割当方法(割当予定先)	第三者割当の方法により以下のとおり割り当てます。 ・日東株式会社 7,500個 ・SUNRISE ORIENTAL CAPITAL PTE. LTD. 7,500個		
その他	① 行使請求期間 2025年2月18日から 2028年1月31日までとします。 ② 譲渡制限 本新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要するものとします。 ③ その他 上記の各号については、金融商品取引法に基づく届出の効力発生を条件とします。		

詳細はこちらへ：<https://www.ikuyo194.co.jp/topics/>

物流効率化・生産性向上・環境対応強化を通じた競争力と顧客価値の向上



- 01 社長メッセージ・新経営戦略 P3~
- 02 会社概要 P11~**
- 03 2025年3月期の業績 P17~
- 04 2026年3月期の予想 P24~

社是

和して合理主義に徹し、
社業の発展を通じ、
社会に貢献する

会社名	株式会社イクヨ
設立	1947年5月
資本金	26億5,848万円
発行済株式数	2,190万4,400株
決算期	3月
代表者	代表取締役社長 孫 峰
株式登録	東京証券取引所 スタンダード市場 (1995年8月上場 証券コード:7273)
従業員数	193名(2025年3月31日現在)
事業内容	自動車用部品の製造
本社所在地	神奈川県厚木市上依知3019
工場	・厚木工場 ・名古屋工場(第一工場) ・名古屋工場(第二工場) ・岡山工場
子会社	PT.IKUYO INDONESIA(インドネシア共和国) IKUYO VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム社会主義共和国) イクヨトレーディング (2025年3月31日現在)

【国内】高品質および効率化を目指した拠点展開を実施

【海外】インドネシアを皮切りに、中国等アジア圏を中心とした更なる市場拡大に向け、競争力の強化を行う

国内 工場：4箇所

岡山工場



設立：1969年
主な取扱製品：
カウルトップガーニッシュ
ドアトリム

本社・厚木工場



設立：1964年
主な取扱製品：
フロントグリル
フロアコンソール

名古屋工場(第一工場)



設立：1977年
主な取扱製品：
ドアガーニッシュ
フロントエアダム

名古屋工場(第二工場)



設立：1997年
主な取扱製品：
テールゲートトリム
オーバーフェンダー

海外 工場：1箇所

ベトナム

IKUYO VIETNAM CO.,LTD.

設立：2021年
事業内容：
ベトナム市場の調査

インドネシア

PT.IKUYO INDONESIA



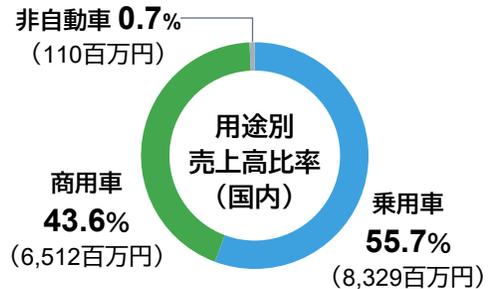
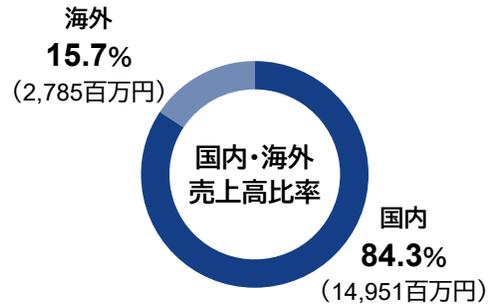
設立：2013年
事業内容：
自動車用樹脂部品の製造販売

2025年3月31日現在

- 自動車の内装・外装部品を中心に、さまざまな樹脂成形部品を生産しています。
- ポストパンデミック時代のグローバル製造業の回復と再構築に対応してまいります。

2025年3月期

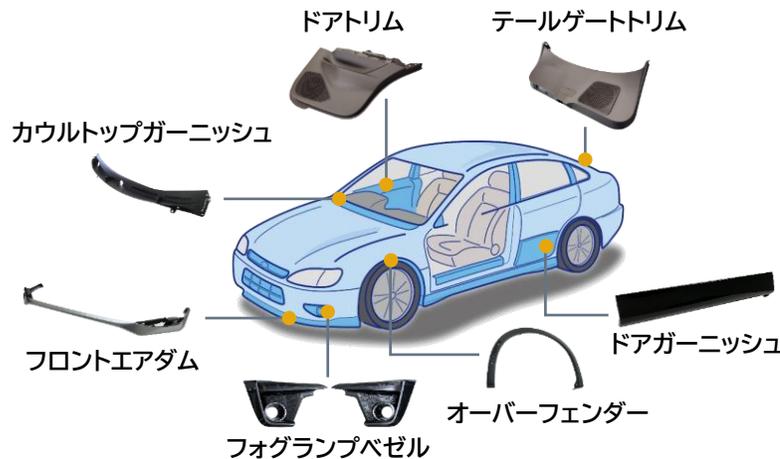
売上高 **17,736** 百万円



主要取扱製品

乗用車

デザイン性や快適性を重視した部品(内装部品、外装部品など)を供給

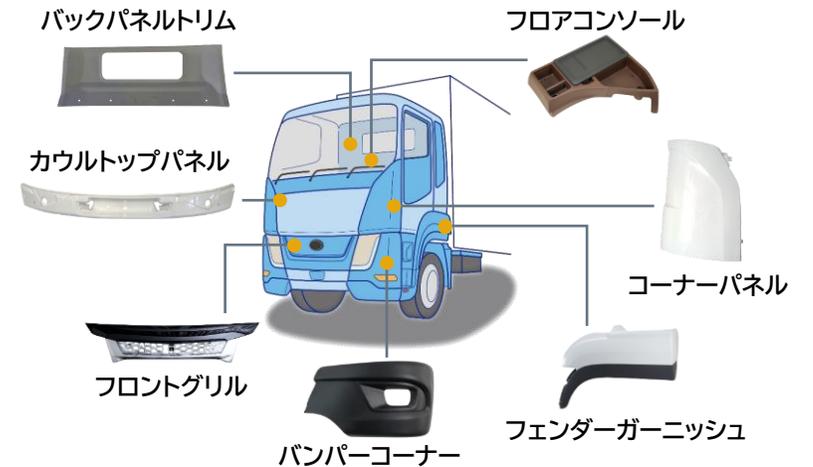


その他取扱製品

- フロントピラートリム
- センターピラートリム
- ドアピラーガーニッシュ
- クォーターピラーガーニッシュ
- スカッフプレート
- サイドエアダム
- デルタガーニッシュ
- スプラッシュシールド
- グリルガーニッシュ
- フロントバンパー
- フロントグリル
- ロアグリル

商用車

耐久性や機能性を重視した部品(バンパー、ラジエーターグリルなど)を提供



その他取扱製品

- クォーターガーニッシュ
- ドアガーニッシュ
- バッテリーカバー
- マッドガード
- ステップウォール
- レーダーガーニッシュ
- オーバーヘッドコンソール
- ドアトリム
- フロントピラートリム

- 2026年4月以降、持株会社へ移行し、新たに提供できる製品を加えることで企業価値を高めてまいります。



- 当社グループは、当社、連結子会社1社(PT.IKUYO INDONESIA)および非連結子会社1社(IKUYO VIETNAM CO., LTD.)で構成され、自動車の装備品(以下、自動車部品という)の製造および販売を主な内容とした事業活動を行っております。
- なお、IKUYO VIETNAM CO., LTD.については、業績に与える影響はないことから、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、重要性がないため非連結子会社としております。

創業

1947

- **1947年**
自動車窓用ゴムの製造並びに販売を目的として
㈱イクヨ商会設立
- **1951年**
荒川工場設置、自動車窓用ゴムの
自社製造を開始
- **1953年**
イクヨ化学工業㈱に商号変更
- **1959年**
樹脂成型品製造開始
- **1964年**
神奈川県厚木市に厚木工場を
設置し、荒川工場を廃止

1970

- **1969年**
水島工場
(岡山県倉敷市、現岡山工場)を設置
- **1974年**
㈱イクヨに商号変更
- **1977年**
岡崎工場
(愛知県安城市、現名古屋工場)を
設置
- **1995年**
日本証券業協会に株式を
店頭登録
- **1997年**
東京証券取引所市場第二部に上場
名古屋第二工場を設置

2000

- **2001年**
イクヨワークス株式会社および
イクヨ塗工株式会社と合併
- **2013年**
インドネシアに子会社
「PT. IKUYO INDONESIA」を設立

2020

- **2021年**
IKUYO VIETNAM CO.,LTD.を設立
- **2022年**
東京証券取引所の市場区分
見直しにより、スタンダード
市場へ移行

- 01 社長メッセージ・新経営戦略 P3~
- 02 会社概要 P11~
- 03 2025年3月期の業績 P17~**
- 04 2026年3月期の予想 P24~

2025年3月期 実績 決算サマリー

- 売上高は微増となりました。

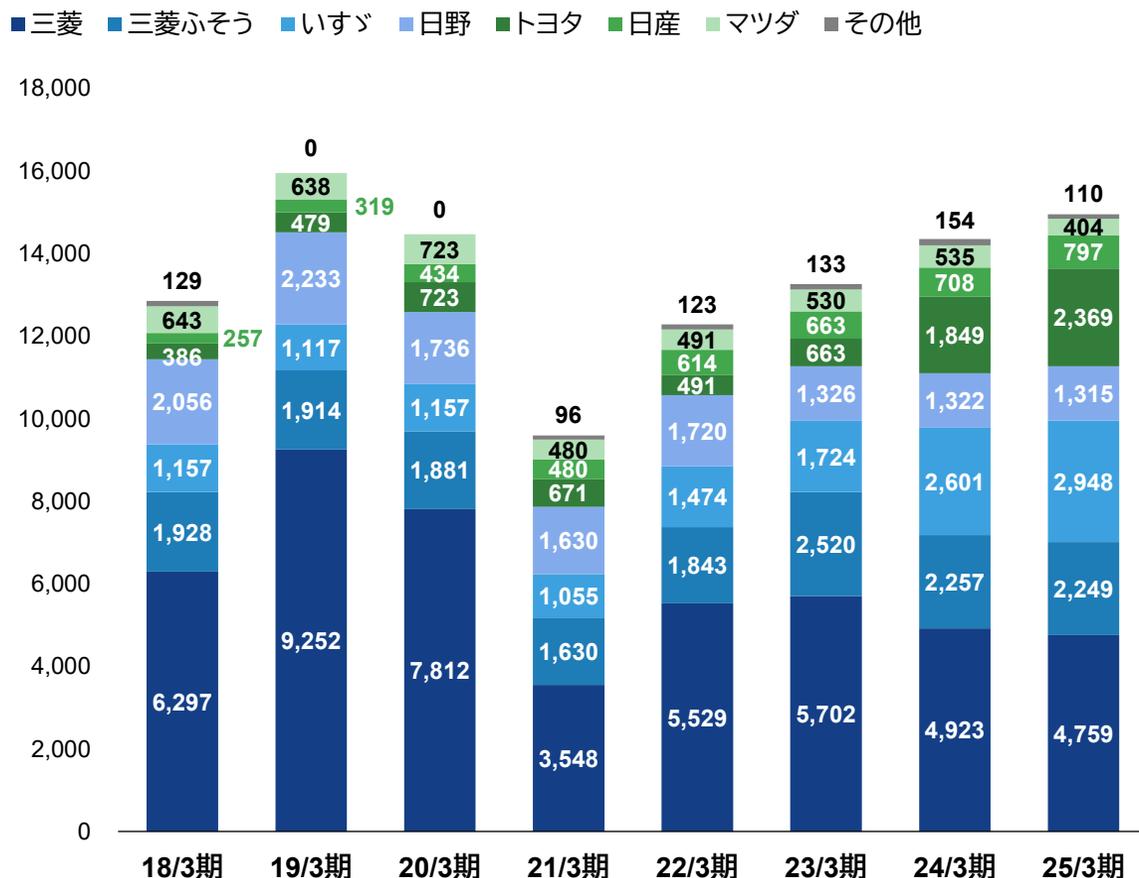
	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年比		2025年3月期予想 (12月31日公表値)		
			金額	増減率(%)	予想	予想比(%)	
(単位:百万円)							
売上高	17,351	17,736	+ 385	+ 2.2%	17,101	+ 3.7%	
営業利益	712	39	△673	△94.5%	167	△76.6%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	488	44	△444	△91.0%	142	△69.0%	
1株当たり当期純利益	320円72銭	28円92銭	△291円80銭	△91.0%	93円24銭	△69.0%	
ROE	8.7%	0.6%	—	△8.1pt	—	—	
(単位:千台)							
前提 条件 ※	MMC社生産台数	540	660	+ 120	+ 22.2%	590	+ 11.9%
	ふそう社生産台数	83	65	△18	△21.7%	80	△18.8%
	いすゞ社生産台数	321	360	+ 39	+ 12.1%	375	△4.0%

※生産台数は、受注した車種の台数

メーカー別売上高実績(国内)

●特定の顧客への依存を低減し、事業リスクを分散させるとともに、新規顧客の開拓を進めます。

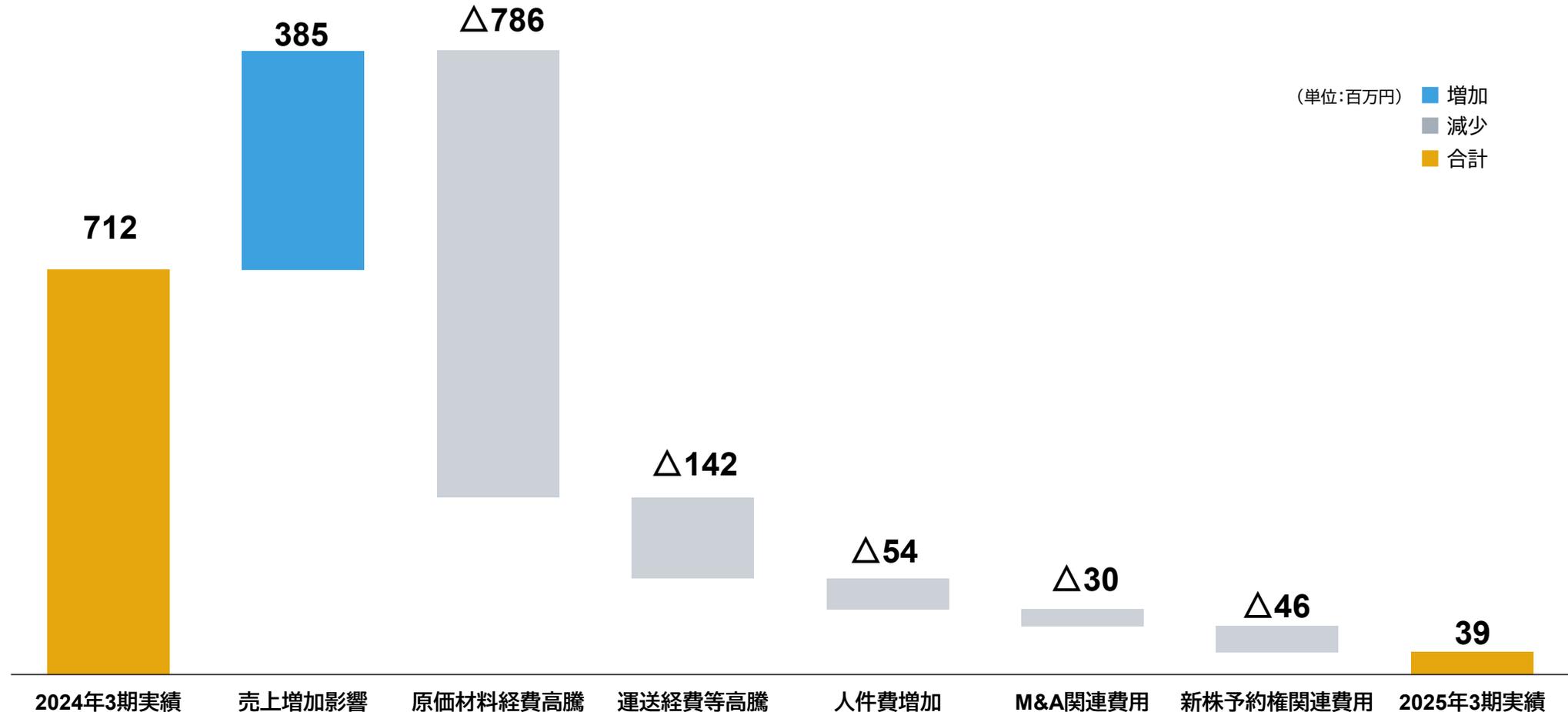
メーカー別売上高実績の変遷(国内)



	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減 (%)
三菱自動車	4,923	4,759	△164 (△3.3%)
三菱ふそう	2,257	2,249	△8 (△0.4%)
いすゞ	2,601	2,948	+347 (+13.3%)
日野	1,322	1,315	△7 (△0.5%)
トヨタ	1,849	2,369	+520 (+28.1%)
日産	708	797	+89 (+12.6%)
マツダ	535	404	△131 (△24.5%)
その他	154	110	△44 (△28.6%)
合計	14,349	14,951	+602 (+4.2%)

実績-営業利益増減分析

- 売上高は堅調に推移したものの、原材料・副資材・電力価格の高騰などの影響によるコストの増加、また、企業グループ体質強化のための戦略的M&A関連費用及び新株発行関連費用等により営業利益は前期と比較して減少しております。



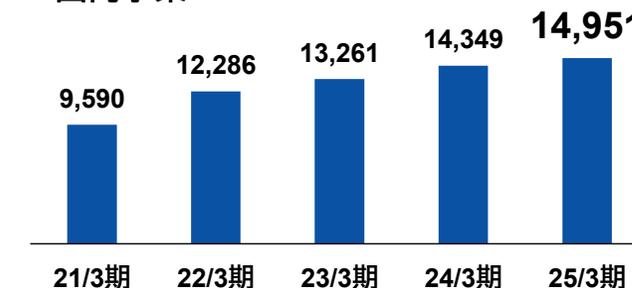
- 乗用車メーカーとの取引拡大により、部品受注が好調となりました。
- ネット販売好調が追い風となり、商用車の販売が堅調に推移しました。

	2024年3月期	2025年3月期			
	実績	実績	前年比	予想	予想比
(単位:百万円)					
国内事業	14,349	14,951	+4.2%	14,610	+2.3%
乗用車	8,016	8,329	+3.9%	8,170	+1.9%
商用車	6,180	6,512	+5.4%	6,302	+3.3%
非自動車	153	110	△28.1%	138	△20.3%
海外他新事業	3,002	2,785	△7.2%	2,491	+11.8%
合計	17,351	17,736	+2.2%	17,101	+3.7%

売上高の推移

(単位:百万円)

● 国内事業



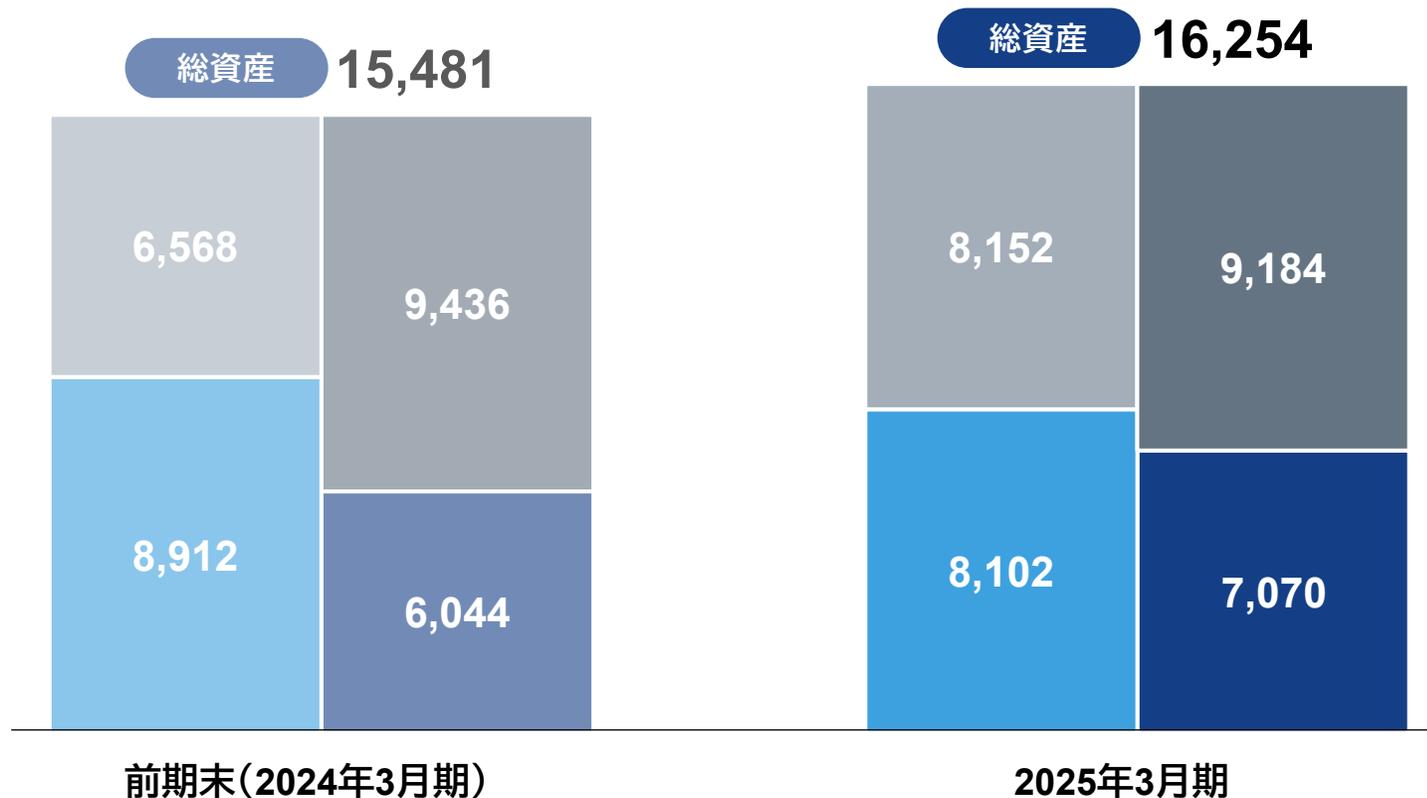
● 海外他新事業



2025年3月期 連結貸借対照表

- 流動資産はKVAS社買収のための資金として一時的に増加しました。
- 固定資産は金型の償却により減少しました。
- 負債は長期借入金の返済により減少しました。
- 純資産は第三者割当増資により株主資本が増加しました。

(単位:百万円) ■ 流動資産 ■ 固定資産 ■ 負債 ■ 純資産



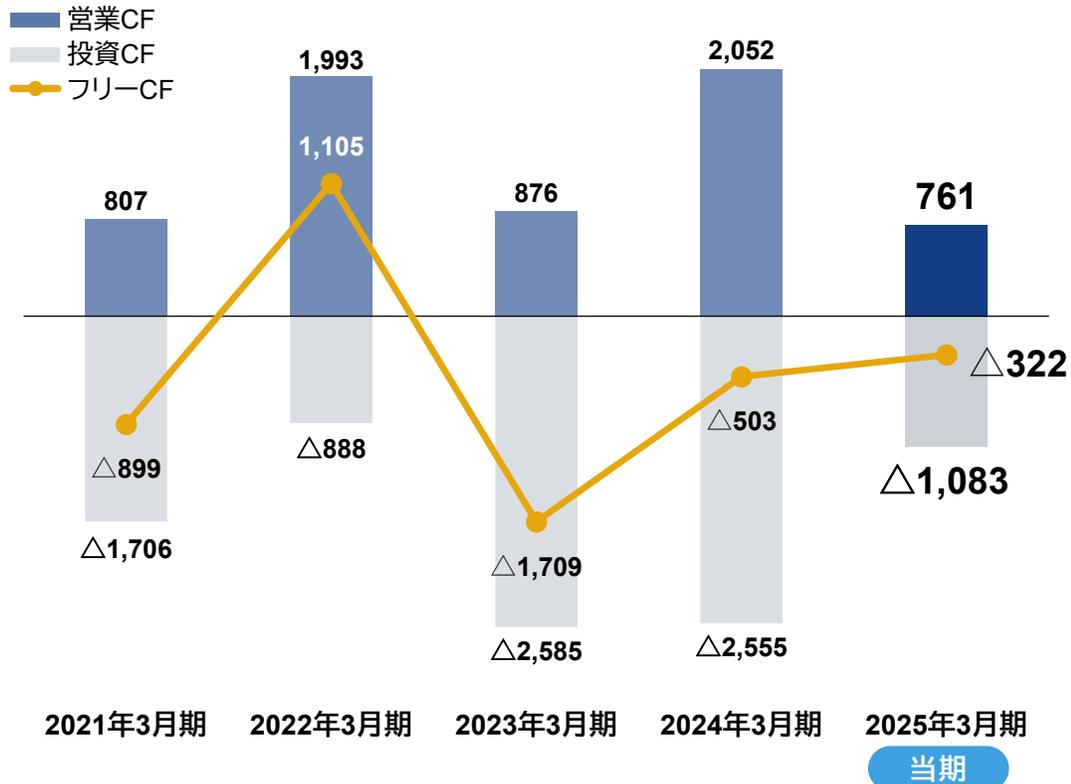
流動資産	+1,584百万円
固定資産	▲810百万円
負債	▲252百万円
純資産	+1,026百万円

2025年3月期 連結キャッシュフロー

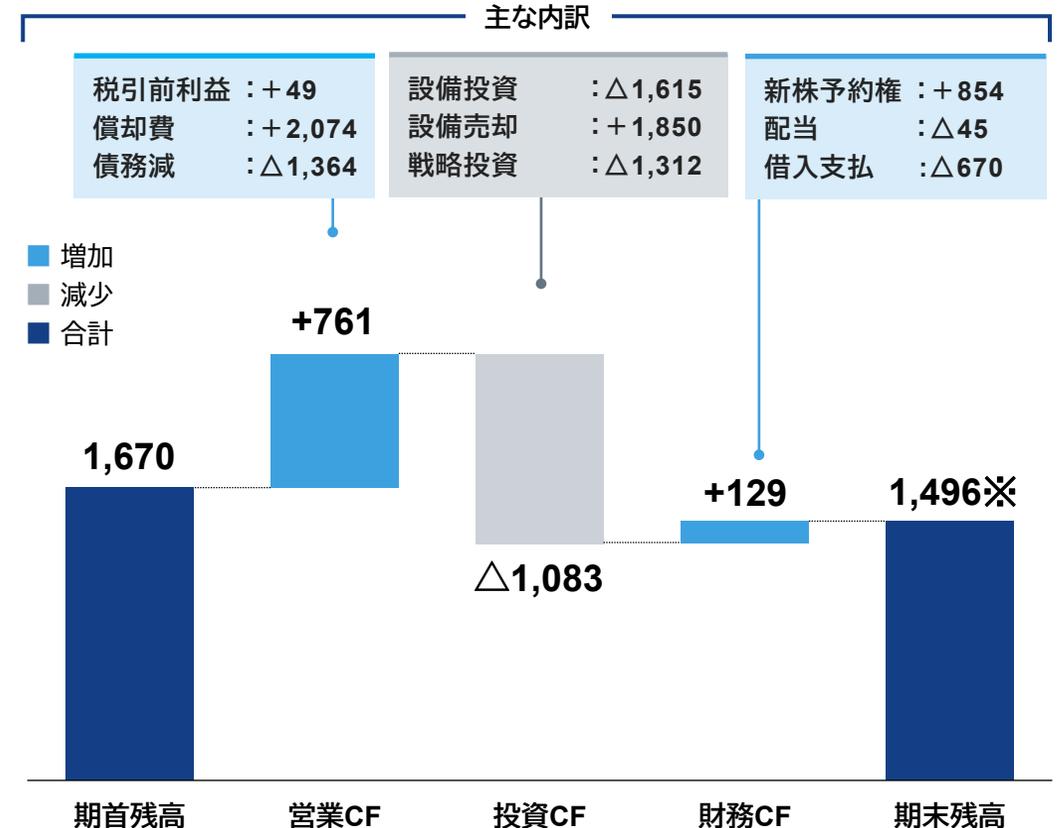
- 投資の増加により直近2年間のフリーCFは年々改善され、営業CFは安定的に推移しております。投資戦略の最適化と新規顧客開拓が財務改善の鍵となります。

連結キャッシュフローの推移

(単位:百万円)



当期のキャッシュフロー詳細



※現金および現金同等物の換算差額18百万円を含みます

- 01 社長メッセージ・新経営戦略 P3~
- 02 会社概要 P11~
- 03 2025年3月期の業績 P17~
- 04 2026年3月期の予想 P24~**

2026年3月期 業績予想サマリー

- 売上高および利益の増加は主に、新たに連結対象となった子会社の業績寄与によるものです。
- 現在、企業がコア・コンピタンスを高めるうえで、多角化戦略は重要な施策となっており、当社も異業種への事業展開を通じて、持続的な価値創出を目指しています。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	予想－実績	
			金額	%／増減倍率
売上高	17,736	187,111	+ 169,375	10.5倍
営業利益	39	1,267	+ 1,228	32.4倍
親会社株主に帰属する当期純利益	44	3,897	+ 3,853	88.6倍
1株当たり当期純利益	28円92銭	1,776円19銭	+ 1,747円27銭	61.4倍
ROE	0.6%	—	—	—

(単位:百万円)

(単位:千台)

前提条件※	MMC社生産台数	660	573	△87	△13.2%
	ふそう社生産台数	65	83	+18	+27.7%
	いすゞ社生産台数	360	321	△39	△10.8%

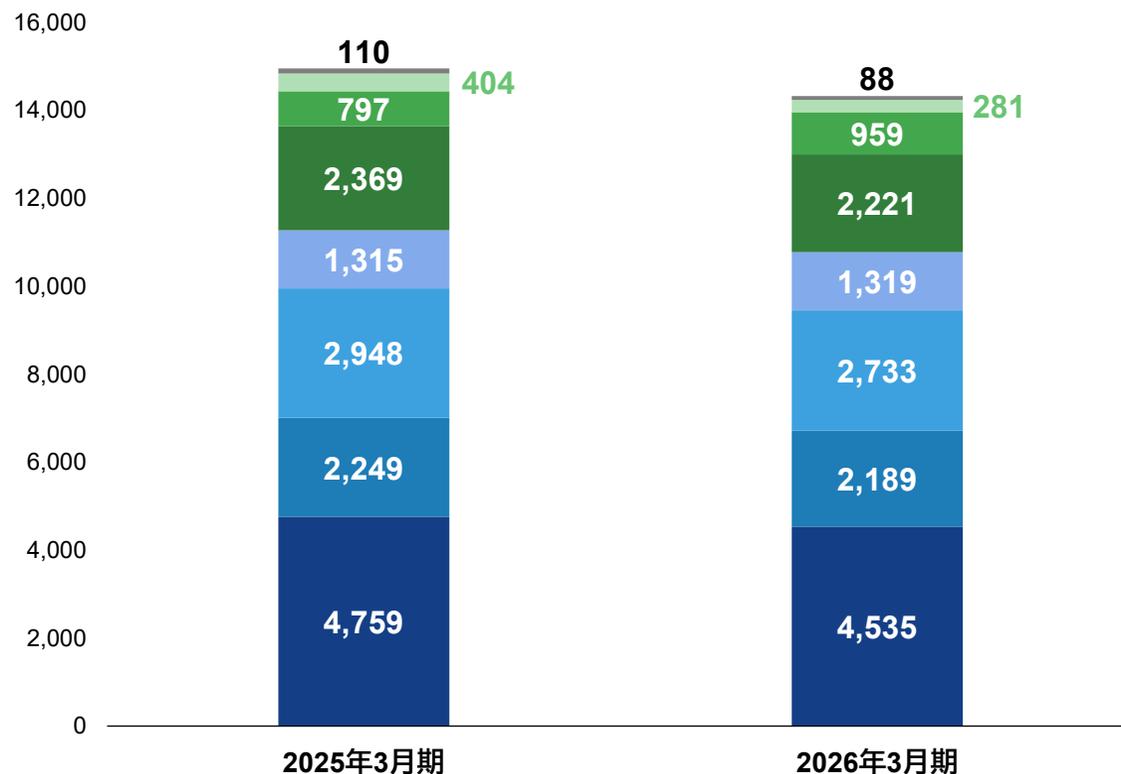
※生産台数は、受注した車種の台数

メーカー別売上高予想(国内)

- 経済環境の悪化を受け、市場全体に低迷傾向が見られます。

メーカー別売上高予想(国内)

■三菱 ■三菱ふそう ■いすゞ ■日野 ■トヨタ ■日産 ■マツダ ■その他



(単位:百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減 (%)
三菱自動車	4,759	4,535	△224 (△4.7%)
三菱ふそう	2,249	2,189	△60 (△2.7%)
いすゞ	2,948	2,733	△215 (△7.3%)
日野	1,315	1,319	+4 (+0.3%)
トヨタ	2,369	2,221	△148 (△6.2%)
日産	797	959	+162 (20.3%)
マツダ	404	281	△123 (△30.4%)
その他	110	88	△22 (△20%)
合計	14,951	14,325	△626 (△4.2%)

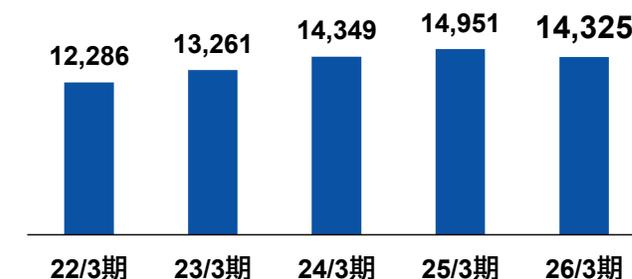
- 海外他新事業の増加は主に、新たに連結対象となった子会社の業績寄与によるものです。
- 国内市場は安定した成長を続けているものの、成長率は限定的であり、多角化への事業転換を積極的に推進しています。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	予想 - 実績	
			増減額	% / 増減倍率
(単位:百万円)				
国内事業	14,951	14,325	△626	△4.2%
乗用車	8,329	7,995	△334	△4.0%
商用車	6,512	6,242	△270	△4.1%
非自動車	110	88	△22	△20.0%
海外他新事業	2,785	172,786	+170,001	62.0倍
合計	17,736	187,111	+169,375	10.5倍

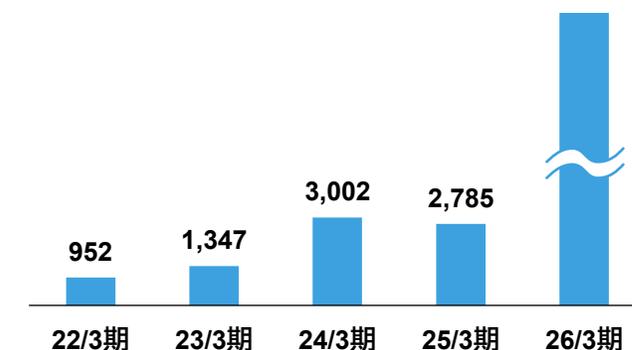
売上高の推移

(単位:百万円)

● 国内事業

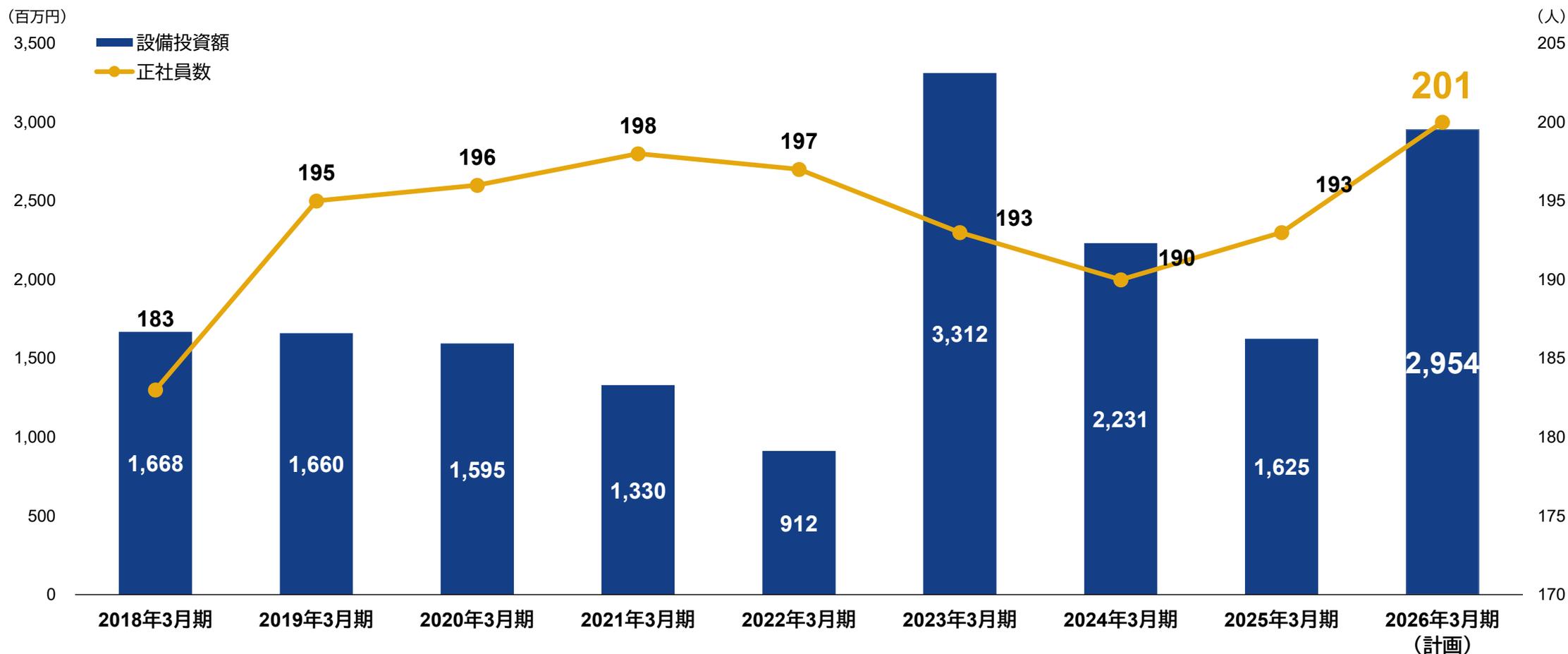


● 海外他新事業



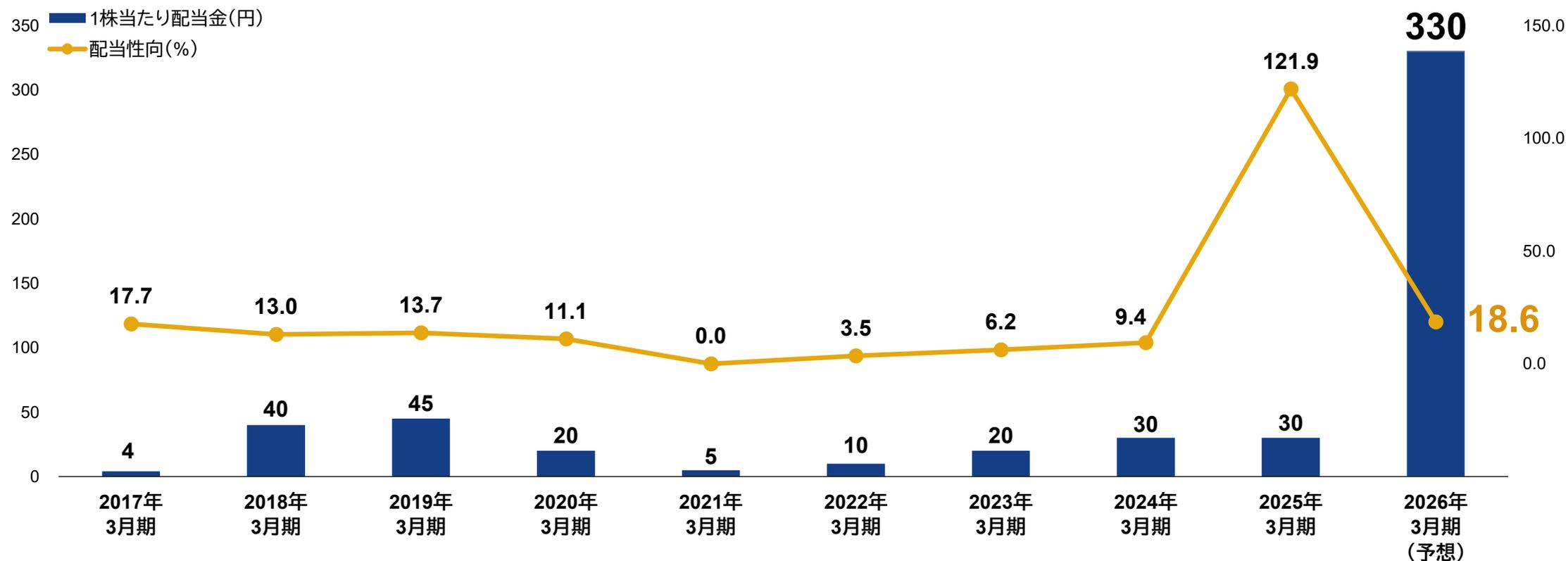
設備投資額および正社員数の実績・計画(単体)

- 生産設備のみならず、DX関連も積極的に投資を検討します。
- 事業の拡大により人員増を計画しています。

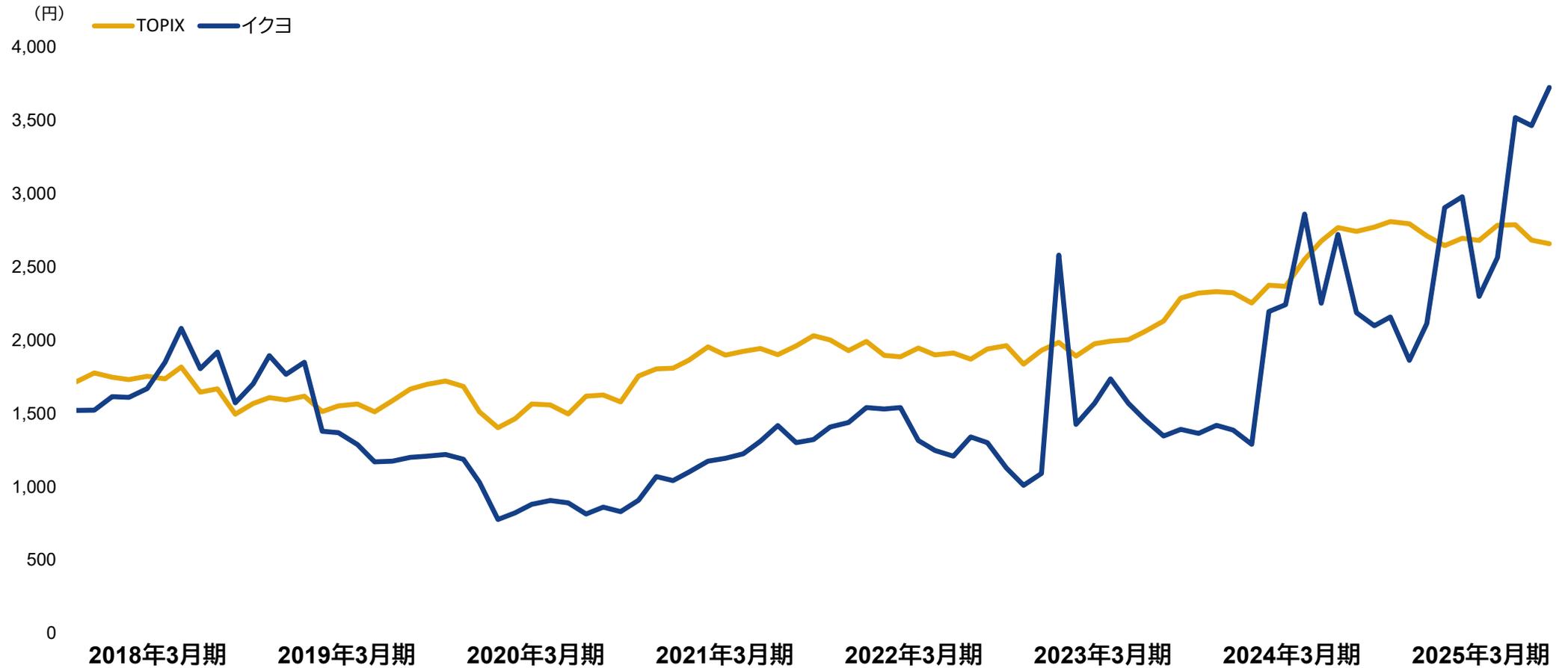


配当方針

当社は、株主の皆様への安定的な利益還元と、企業体質の基盤強化および将来の事業展開に備えるための、株主資本の充実を利益配分の基本方針としております。



※ 2026年3月期の予想配当は、特別配当300円が含まれ、また5月31日時点の株式分割前の金額となります。



イクヨ	1,521	1,767	776	1,174	1,315	1,569	2,722	3,725
TOPIX	1,716	1,592	1,403	1,954	1,946	2,004	2,769	2,658



「しなやかテクノロジー」で お客様と共に躍進する イクヨ

ご清聴ありがとうございました。

本資料に関する 注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの予想値とは異なる可能性がありますことをご承知おきください。